

「権利」と「平等」は軽視？
相互を見はる監視社会？

立派な家が並ぶ
富山県内。(撮影/編集部)

「富山は日本のスウェーデン」か？

富山県民
座談会

「保守が生んだ日本型北欧社会」として富山県を紹介する井手英策氏の著作(下段解説)を読み、実態はまるで違ふと違和感を抱いたのが同県の住民たちだ。どの部分がどう違ふのかを語りあってもらい、その疑問を井手氏にぶつけてみた。さてその返答は？

——県民としてこの本を読んでどう
思われましたか？

齊藤 「格差」論の研究者なのに貧困格差の分析が弱いと思いましたが、生活保護の受給率が低く貧困が少ないと書いてある。確かに富山県の生活保護受給率は人口の0・32%と全国最下位ですが、相談に行っても、3人に2人は役所で蹴られているのです。富山では生活保護申請できた人が2014年で36・2%と、全国平均の50%よりはるかに低く、全国最下位なのです。テレビも車も1カ月の生活費以上をもつていてもダメ、生命保険に入ってもダメ、親兄弟がいるじゃないかと言われる。もう二度と相談窓口には行きたくないという声があると、県議会で火爪弘子議員(共産党)が問題提起しています。役所の対応にも問題があります。

土井 富山は公共交通機関が発達していないから、病院に行くのも食料品を買うのにも車が必要で、車がなければ日常生活はできないから贅沢品ではないのに。

W 生活保護制度を知らずに自殺される方も多そうですね。

齊藤 知っていても、人の目があがり、申請できない人も多いと思う。

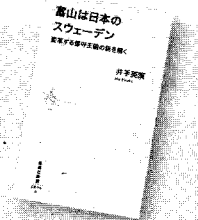
土井 井手さんは富山県知事から委員に委嘱されているんですよ。

齊藤 2015年にとやま未来創

check

「富山は日本のスウェーデン
変革する保守王国の謎を解く」

井手英策 著
(集英社新書、2018年刊行)



富山県の人口は約106万9000人(外国人含む。2018年)で、47都道府県中37位。県民総生産も31位と小さな県だ。ところが、持ち家率は1位、生活保護受給率は47位(つまり最下位)、女性の正社員比率は1位、勤労者世帯の実収入は4位と上位に浮上する。その背景にあるのが何かを探ったのが本書だ。

著者はそれをスウェーデンの社会民主主義政策に見いだす。10年以上、富山県を訪ね続けた結果として、「社会民主主義的な政策をつうじてめざされる状況、帰結が、日本の北陸に、富山にあったとしたらどうだろう」と結論づける。

富山のいいところだけでなく、息苦しさや内向きな部分もひっくるめて、富山社会をさまざまな角度から描こうと努めた(「はしがき」より)という。

造県民会議の特別委員に任命されています。富山県行政に都合のいいところだけ書いている感じ。生活保護の話も議事録を検索したら調べられることで、受給率が低いことをもって豊かさの指標にするのは安易だと思えます。それに、社会民主主義的な考えが富山で根づいていると書いてありますけど。

「権利」と「平等」はズレた？

土井 それはまったく違いますね。私は現在の射水市が合併する前、1999年に小杉町の町長になりました。射水市は小杉町、大門町、大島町、下村、新湊市の5市町村の合併です。「北日本新聞」という地元紙の論説委員長をしていただくんですが、超党派の推薦を得

て1期半やりました。第一の公約が「子どもの権利条例」をつくることで、住民参画も公約でしたので、住民の方と一緒に4年かけて2003年に「小杉町子どもの権利に関する条例」をつくりました。その2年後の05年に、小杉町の条例を引き継ぐということで合併したんですが、射水市になったら教育長が条例を「こんなもん」と言ったそうです。

新しい市でも条例をつくることはつくった。でも「権利」を取って「子ども条例」にしちゃった。その上、条例の理念について書かれた格調高い前文もカットした。大事な「権利」を外してしまいうせな。私が私には理解できない。本の中で射水市をよい例で取り上げて